



フィリピンマカティ市 MKRC プロジェクトのミャンマー研修で、表敬訪問先のミャンマー工学会にて  
MKRC Project Implementation Team from Makati City, the Philippines  
in a courtesy call on Myanmar Engineering Society in Myanmar Study Visit

## Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこの SEEDS のロゴをかざすと簡単に寄付ができます。】

### Table of Contents Vol.50 (Jan, Feb 2016)

- ・ インド：参加型コミュニティ防災推進事業
- ・ 日本：東日本大震災被災者支援事業
- ・ ミャンマー：災害危険地域における防災能力向上支援  
USAID の能力強化支援プロジェクト
- ・ フィリピン：セブ州における防災教育の技術移転事業  
マカティ市における移動式防災教室による防災知識の普及啓発事業
- ・ 本部からのお知らせ
  
- ・ India: Project on Participatory Community-Based DRM
- ・ Japan: Support for people affected by Great East Japan Earthquake & Tsunami
- ・ Myanmar: Project on Capacity Building for DRR  
Project on Myanmar Consortium for Capacity Development  
on Disaster Management
- ・ Philippines: Project on DRR Education with school- community linkage in Cebu  
Project on Raising Awareness for Disaster Risk Reduction by MKRC  
in Makati
- ・ Announcements from SEEDS Asia



(特定非営利活動法人 SEEDS Asia)

〒658-0072

3-11-30-302 Okamoto,  
Higashi Nada ku, Kobe, Japan

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Web: www.seedsasia.org

Facebook: [http://www.facebook.com/  
pages/SEEDS-Asia/206338119398923](http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923)

## インド



## 【日本 NGO 連携無償資金協力事業・バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

### 地域防災協議会結成にむけて

防災環境教育を実施するクライメートスクールに気象観測機材等の設置を進めていることに関しては前号でお伝えしたところですが、今号では本プロジェクトのもう一つの「かなめ」となる地域防災協議会の役割を中心に お伝えします。

本プロジェクトでは、バラナシ市内の 5 地域に地域防災協議会の結成を計画しており、現在、バラナシ市内で活動しているコミュニティグループについて調査し、グループとの話し合い、調整を行っています。

地域防災協議会の役割は、クライメートスクールと協力して、地域に防災意識、防災行動を広めていくことです。具体的には、タウンウォッチング(まちあるき点検)を行ったり、リスクマップ(危険度マップ)を作成したりすることにより危険箇所を把握し、安全な避難経路や場所を地域住民と共有できるようにすることです。



バラナシ市内のいたるところで見られる道路に放置されているごみです。洪水が発生した際にごみと氾濫した水が混ざり合い、衛生状態が非常に悪くなります

また、バラナシ市では毎年、雨季に長時間降り続ける雨により、ガンジス川の水かさが増します。ひどい場合には川が氾濫し、川の水が住宅・商業地域にまで浸水し、人々の生活に影響を与えます。近年では、2011 年および 2013 年に川が氾濫して洪水が発生し、ガンジス河流域の広範囲の住民に大きな被害を与えました。

そのため、洪水発生に備えて、早めの段階から 2 階に貴重品を移動したり、避難用物資を用意したりするなどの減災行動の重要性を意識づけていくことにより、地域住民の自主的な防災行動につなげていくことも地域防災協議会の大きな役割と考えています。

バラナシ市内には、ガンジス川周辺をきれいに保とうと定期的に清掃を行うグループ、近隣住民同士で助け合うグループ、など大小様々なグループが存在し、活発に活動しています。しかし、その活動の中には防災に関する活動が含まれていません。よって、これらのグループに協力を呼びかけることで、防災活動を積極的に行う地域防災協議会の結成を目指します。



乾季のガンジス川の様子です。雨季には水かさが増し、川沿いの建物まで達することもあります

## 東北：東日本大震災被災者支援事業

### 【UMCOR・CWS Japan 支援事業】

#### 防災主任研修会での講演

2016 年 2 月 23 日、気仙沼市教育委員会の防災主任研修会が行われ、SEEDS Asia は講師の 1 人として講演を行いました。他には、防災主幹教諭 2 名が活動報告を行い、また、気仙沼市自主防災連絡協議会会長の臼井弘さんも自主防災組織の取り組みについて発表されました。

SEEDS Asia の発表では、1 月に完成した動画「気仙沼市における ESD 防災教育の革新つなぐ一教訓を次世代へ」を初めて上映し、教員達の学校防災に対する取り組みの努力とともに、忘れてはならない震災からの復興の教訓とその苦勞を改めて確認しました。また、防災だけではなく、コミュニティ復興の過程には学校や生徒の参画が必要であることを条南中学校の南郷災害公営住宅との交流会の映像で示すことが出来ました。

上映後には、「このビデオを活用して現在の気仙沼の姿を外部に知らせたい。」「授業でも生徒に見せたい。」「良いビデオを作ってくれた。」といった声が上がりました。

今後、自主防災組織の立ち上げを考えている自治会に対しても、学校が防災教育をどのように進めたいのかが理解できるよう、様々な所でこの動画を活用していきます。

### 【UMCOR・CWS Japan 支援事業】

#### 南三陸町入谷小学校との防災教育

2016 年 2 月 15 日、壊滅的な被害を受けた南三陸町、その中で高台にある為に被害を受けずに済んだ入谷地区の入谷小学校防災主幹教諭と来年度の防災教育の進め方について話し合いが持たれました。

入谷小学校は防災教育のモデル地区として宮城県から指定を受けています。津波の被害は受けませんでした。土砂災害が懸念される場所にある事と、津波の場合には後方支援の基地として機能しなければなりません。



多くの犠牲者を出した南三陸町防災庁舎

しかし、住民の多くは土砂災害に対して危機感が薄く、真剣に取り組もうとしないようです。

地域の方々に防災意識を持ってもらうかが防災主幹教諭の悩みです。

そこで京都大学の学校災害回復力調査 (SDRA) や SEEDS Asia のコミュニティ支援のノウハウを生かしていきたいと望まれていました。来年度のスケジュールを含めて協力を約束し、今後は南三陸町でも地域と密に連携を作って行こうと考えています。



南三陸町では 90%の児童が遠方からバス通学している



生徒、教員、ラプタ区教育事務所との集合写真

## 【JICA 草の根技術協力事業：災害危険地域における防災能力向上支援プロジェクト】

### 防災活動センター設立に向けた準備作業とオープニング コンジャンゴン区、ラプタ区、ボガレ区】

本プロジェクト(2016年3月終了予定)では、クンジャンゴン区、ラプタ区、ボガレ区の全3区において、各区2箇所(それぞれ中心部と遠隔地)、合計6箇所の「防災活動センター」の開設することによって、学校と地域の連携を図ることを目的に実施しています。プロジェクト終了を控えた本報告期間には、計画していた全ての防災活動センター(全6箇所)での開所式を迎え、2月12日よりJICA 関西国際センター(JICA 関西)市民参加協力課にて、本事業を担当頂いている白井宏明氏がミャンマーを訪問し、ラプタ区での防災活動センター二か所(同区第二高等学校とビトゥ村高等学校)にてモニタリングを実施しました。

#### 1) クンジャンゴン区

クンジャンゴン区の防災活動センター第二号地であるラッココン村において下記トレーニング、及びワークショップを実施し、1月31日開所式が開催されました。

- ① より安全な建設技術トレーニング(1月6日-7日)
- ② ラッココン村防災活動センター活動計画ワークショップ(1月27日)



開所式にはコンジャンゴン区区長、JICA ミャンマー事務所桜井氏からのご挨拶をいただきました

一方、コンジャンゴン区第一高等学校における防災活動センターでは、2月15日、JICA 関西よりモニタリングが実施され、生徒による防災展示モデルの説明などが行われました。



## ミャンマー

### 【ラプタ区大火災 被災者緊急支援の実施】

#### 被災生徒へのスクールキットの配布

2016年2月4日深夜頃、エヤワディ地域ラプタ区において大規模な火災が発生し、179家屋、20店舗が全焼し、190世帯が被災しました。ラプタ区行政庁事務所、教育事務所、社会福祉救済復興省・復興救済局からの被害報告に基づき、同月9日、ラプタ区教育事務所にて、火災により被災した合計170名の子どもたち全員(5校)に、学習キットを手渡しました。この緊急支援に対し、ミャンマー工学会、ミャンマーの大学教授、ミャンマーに住む友人、SEEDS Asia 本部、また SEEDS Asia ミャンマー事務所のスタッフより4,148,000ks(約41万円)のご寄付を募ることができました。この場を借りて、皆様からの温かい御支援に対し深く感謝を申し上げます。なお、当件に関する詳細な情報は下記のリンク先(SEEDS Asia HP)より閲覧が可能です。また、緊急支援後に頂いたご寄付は、ラプタ区教育事務所より追加で報告のあった29名の生徒への支援に活用させていただきます(学年度末試験後に配布予定)。

[http://www.seedsasia.org/JP/wp-content/uploads/2016/02/Report\\_on\\_fire\\_Labutta\\_20160219SEEDS.pdf](http://www.seedsasia.org/JP/wp-content/uploads/2016/02/Report_on_fire_Labutta_20160219SEEDS.pdf)



クンジャンゴン第1防災活動センターで  
防災展示モデルを説明する生徒

## 2) ラプタ区

ラプタ区での防災活動センターとして開設済の同区第二高等学校と、ピトゥ村高等学校を JICA 関西より白井氏が訪問し、2月12日と13日にモニタリングを実施しました。継続的な防災教育活動が、トレーニングを受けた防災リーダーらによって実施されていることが確認され、他校への波及効果も見られました。

ラプタ区では同月4日に大火災に見舞われたところですが、防災活動センターのメンバーが消火補助をするなど、活躍した様子をうかがうことができました。



JICA 関西からのモニタリングの様子  
(ラプタ区第1防災活動センター：於同区第二高等学校)



JICA 関西からのモニタリングの様子  
(ラプタ区第2防災活動センター：於ピトゥ村高等学校)

## 3) ボガレ区

ボガレ区では、2月9日にはチョンニョンジー島コンティーチヤウン村高等学校において、2月10日にはボガレティンアウン図書館での防災活動センター開所式を迎えました。

開所式の前には、下記のトレーニングが合同で実施されました。

- ① 消防トレーニング (1月12 - 15日)
- ② 防災活動センター 活動計画ワークショップ (1月23日)
- ③ 地震・津波セミナー (1月24日)
- ④ より安全な建設技術トレーニング (2月4 - 5日)



ボガレ区での消防トレーニングの様子

## 【USAID 国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

### 社会福祉救済復興省復興救済局と共同コンソーシアムメンバーとのコンサルテーション会議 (場所：ネピドー)

SEEDS Asia は標記プロジェクトの共同コンソーシアムメンバーの一団体として、災害マネジメント調査及び啓発活動を実施する予定となっています。2016年1月7日、同プロジェクトの一環として、社会福祉救済復興省・復興救済局とコンソーシアムメンバーとの間でプロジェクトのレビュー及び協議会が同局事務所 (於：ネピドー) で行われました。SEEDS Asia は災害マネジメント調査に関するプロジェクトの総括、調査方法、期待される成果などを復興救済局に対し、詳細に説明を行いました。SEEDS Asia の説明に対し、ウー・ソーアウン (U Soe Aung) 社会福祉復興救済局長は現在行われている災害に関連する調査を行っている大学と連携強化を図っていきたいという強い意志を示されました。

(\* 共同コンソーシアムメンバー：UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED 他)

技術協力団体：UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA 他)



SEEDS Asia が災害マネジメント調査について説明

社会福祉救済復興省・復興救済局長並びにダゴン大学（地質学課）との会議

上記の1月7日の協議を踏まえ、2016年2月23日、社会福祉救済復興省・復興救済局（於：ネピドー）の招致を受け、SEEDS Asiaはダゴン大学地理学部学部長キンケンウェイ（Prof.Khin Khin Wai）教授と共にネピドーを訪問し、同教授からダゴン大学で現在提供している「災害学」ディプロマ・コースの一部の科目を紹介しました。同説明を受け、ウー・ソーアウン（U Soe Aung）社会福祉救済復興省・復興救済局長は、同省が開設した防災マネジメントトレーニングセンターのカリキュラム充実に向け、今後、同大学とさらなる連携を図ることで合意しました。また、シーズアジア理事長を務めるショウ ラジブ（Prof. Rajib Shaw）より、環境、防災分野の学術書（Urban Disasters and Resilience in Asia, Sustainable Development and Disaster Risk Reduction など）14冊を防災研修センターに寄贈しました。これに対し、復興救済局長が感謝の意を表し、記念品として復興救済局のロゴ入りのクリスタルグラスをSEEDS Asiaに手交しました。



社会福祉救済復興省・復興救済局長並びにダゴン大学教授との集合写真

防災リサーチ・アクションに関するオリエンテーション及びワークショップ（ダゴン大学）

10月に実施した防災分野における「トレーニング・リサーチ・アクション」ワークショップを踏まえ、2016年2月21～22日、SEEDS Asiaはダゴン大学と共同で、同大学の学生（16名）及び若手研究者（14名）向けの防災分野のアクション・リサーチワークショップを同大学で開催しました。状況の把握・分析から改善策を導き出す「アクション・リサーチ」に関する基本的な方法論・手順を紹介したところ、参加者からは強い関心が寄せられました。



参加者（ダゴン大学）との集合写真

湾岸地域コミュニティの災害回復力調査（CCRI）に伴う現地調査及びフォーカル・グループ・ディスカッション

本プロジェクトでは湾岸地域コミュニティの災害回復力調査（CCRI調査）をエヤワディ地域26区で行うこととなっており、ヤンゴン工科大学博士課程の学生であるエーエーカイン（Ei Ei Khine）、社会福祉救済復興省・復興救済局の職員及びシーズアジア・ミャンマー事務所の調整員を含めた調査グループを結成し、1月から、フィールド調査を開始しました。1月から2月にはチャイレ区、マウビン区、モラミンジュン区、デダ工区、パテイン区、ターバウン区、ンガブドー区で行われました。

CCRIは政府機関の各省庁、自治体、コミュニティ等に対する質問票を用いたインタビューとフォーカル・グループ・ディスカッションで構成され、湾岸エリアの災害レジリエンスを図るための5分野：①社会経済、②インフラ、③制度やガバナンス、④湾岸エリア管理、⑤自然環境を軸として125項目のデータを収集しています。



パテイン区で行われた政府機関職員に対するインタビュー調査



フィリピン（セブ）

【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業】

防災教育アイプラン作成ワークショップ

フィリピンでは、全ての教員に授業ごとのアイプラン（Instruction Plan: 指導計画）の作成が義務づけられています。SEEDS Asiaがプロジェクトで提案する防災教育を実践に移すためには、教員らは基礎教育カリキュラムに落とし込んだアイプランを作成しなければなりません。しかし、多くの教員は、通常の授業でもアイプランを作成していない、というのが現状です。そこでSEEDS Asiaは2015年12月8日、10日、11日、14日、15日にかけて6つのモデル校においてCID(Curriculum Implementation Division)と呼ばれるアイプランのチェックと評価を行う機関と共に防災教育アイプラン作成ワークショップを行いました。

このワークショップにより教員らにアイプランの作成能力が養われ、すべてのモデル校から継続的な防災教育の実施に配慮したアイプランが提出されました。このアイプランはCIDによる改訂を経て、他校で実施試験が行われ、教育省（DepEd）により正式に承認されれば、包括的な防災教育のモデルとしてDepEd LRMDS(Learning Resource Management and Development System)のウェブサイト上で共有されることになります。したがって、事業地域のセブ州のみならず、フィリピン教育省の認定した防災教育のモデル授業プランとして、フィリピン全土、さらにはインターネットを介して全世界で共有されることになります。これはSEEDSAsiaのセブプロジェクトならではの画期的な取組といえます。



アイブランと防災教育フォローアップミーティングの様子、ボゴ、中央小学校にて

**教育省第7地方事務所による表彰式**

2016年2月1日、教育省第7地方教育事務所は、事業パートナーに対する感謝授与式を開催しました。SEED Asiaは防災教育に関する教員の人材育成と幼稚園から10学年(中学校)までの基礎教育への防災教育の統合とアイブランへの開発、また各自自治体との連携を通じた学校における防災教育の実践に対し、価値ある貢献をしたと高く評価され、その活動が表彰されました。



第7地方教育省より受賞した感謝状

**地域の関係者との防災教育ミーティング**

2014年11月に始まったセブプロジェクトは着実にその進展と成果を実感することができています。SEEDS Asiaはこれまで教育省第7地方事務所の協力を得て、運営委員会の設立、防災教育コアチームへの本邦研修や5日間の防災教育トレーナー育成研修(ToT)、さらにはコアチームによるモデル校の教員への防災教育研修を実施してきました。そして次なるステップは、持続的な防災教育のために、地域との連携体制を強化することです。そのため、2016年2月22日~24日、及び29日に、各モデル校にて、バラングイ・キャプテン、各PTA代表、市・町の地域防災管理課長、各モデル校の教員らを集め、地域との連携による防災教育の実行ミーティングを行いました。

ミーティングでは、本プロジェクトの概要説明や、学校での防災教育における地域との連携の必要性、また災害発生前、発生中および発生後における各々の役割などについて話し合われました。さらにモデル校教員らによる各校での防災教育の実践について発表する場が設けられました。モデル校の教員は、2015年10月26~30日にトレーニングを受けてから2か月余りと間もないにもかかわらず、教員らの防災教育に対する積極的なかわりや意識の変化をはっきりと目にする事ができました。

このミーティングを足がかりに、学校、PTA、バラングイ、市・町が、地域との連携による防災教育の実現という目標に向かってひとつになることを期待しています。



地域との連携による防災教育ミーティングの参加者全員と共に。ダナオ、BEATRIZ D. DURANO メモリアルナショナル高校にて



**フィリピン (マカティ)**

**【日本 NGO 連携無償資金協力事業：移動式防災教室による防災知識の普及啓発事業 (第1年次)】**

**ミャンマー視察研修**

本プロジェクトでは、マカティ市役所の職員を主としたプロジェクト実施チーム (Project Implementation Team : PIT) と共に移動式防災教室 (Mobile Knowledge Resource Center : MKRC) による防災啓発事業を進めています。1月31日から2月6日の間、PITの代表5名をミャンマーに派遣し、オリジナルのMKRCの先進的な取組みについて学ぶ研修を実施しました。

PITはプロジェクトの核として、意志決定をしたり地域住民のトレーナーとなったりするメンバーで、部署間で横断的な対応ができるよう、コミュニティ防災に関係する複数の部署及び組織で構成されています。ミャンマー視察研修の参加者は下記の部署及び組織から派遣されました。

1. マカティ市役所 防災管理事務局
2. マカティ市役所 都市開発部
3. マカティ市役所 情報・広報部
4. マカティ市役所 バラングイ・リーグ
5. 教育省 マカティ市地区事務所

研修のスケジュールは下記の通りです。

1月31日	マニラからヤンゴンへ移動
2月1日	ミャンマーとフィリピンの防災制度や現状に関する研修
2月2日	・ フィールド訪問、MKRC 研修見学 ・ 救済復興局 表敬訪問
2月3日	・ 移動式防災教室のモニタリング・評価に関するワークショップ ・ ミャンマー工学会 表敬訪問 ・ ミャンマー教育省 表敬訪問
2月4日	移動式防災教室の研修計画づくりに関するワークショップ
2月5日	
2月6日	ヤンゴンからマニラへ移動

本部からのお知らせ

この視察研修を受け入れた SEEDS Asia ミャンマー事務所や、ミャンマー国内の訪問先の方々のお陰で、実りある研修となりました。特に、実際にミャンマーの MKRC を用いた防災研修を見学することで、参加者はマカティ市の MKRC の研修内容をさらに良くするための具体的なアイデアを得ることができました。さらに、ミャンマーの MKRC の計画段階や実施段階、今後の展望に関わってきた、異なる機関の方々とお会いする機会にも恵まれ、MKRC の今後に向けた課題や、あらゆるパートナーと協働でコミュニティに貢献するといった展望が共有されました。



ミャンマー MKRC で使用されている災害模型についての説明を聞く参加者

また、数々のワークショップでは、MKRC の先駆者である SEEDS Asia のミャンマースタッフが気づきの機会や的確なアドバイスを提供してくれました。参加者は、フィリピンに帰国後、これらのワークショップで得られたアウトプットをさらに改良し、フィリピンの MKRC に生かすこととなりました。



SEEDS Asia ミャンマーのカウンターパートであるミャンマー工学会との集合写真

フィリピンへの帰国後は、参加者から他の PIT メンバーに対して学びの共有をし、今後の実施計画の最終合意に至りました。研修を通じ、PIT メンバーは非常に刺激を受け、今後のマカティ市における MKRC 研修、そして防災意識向上そのものに対するはっきりとしたビジョンを身に付けることができました。

イベント報告

「ワン・ワールド・フェスティバル 2016」

2016 年 2 月 6 日、7 日に大阪で行われた西日本最大級の国際協力のお祭り、「ワン・ワールド・フェスティバル」に SEEDS Asia が参加しました。SEEDS Asia がこのイベントにブース出展をするのは、今年で 5 回目となります。関西に拠点を置く NGO、NPO、国際機関、高等教育機関、企業などたくさんの団体が出展し、約 2 日間の来場者数は約 24,000 人だったそうです。

SEEDS Asia のブースでは、各事業地の活動写真、ベトナム・ミャンマーで使用されている防災教材の展示を行いました。ご来場された方からは、そもそも事業地をどのように選定したのか、防災教材はどのように使うのか、といったご質問があり、各事業の目的を説明したり、防災教材の使用を実演したりしました。国際協力や防災に関心のある学生、社会人の方々が多数ブースに訪問して下さい、私たちの活動を知っていただく良い機会となりました。



「ワンワールドフェスティバル 2016」会場の様子



「ワンワールドフェスティバル 2016」に於ける SEEDS Asia のブース



子どもに防災クイズを出している SEEDS Asia のスタッフ

## SEEDS Asia 本部事務所の引っ越しのお知らせ

SEEDS Asia 本部事務所が移転しました。  
新事務所の住所は神戸市東灘区岡本 3 丁目 11-30-302 です。  
電話、FAX 番号に変更はございません。  
近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄り下さい！。

## 新スタッフ紹介

### フィリピン・セブ事務所 (木田 晶子)

皆さま、はじめまして。フィリピン・セブ事業担当の木田晶子と申します。2月にフィリピンに赴任してから早いもので約2か月が経とうとしています。フィリピンの人たちの防災教育に対する熱い思いとその行動力に刺激を受ける日々です。

私の職業は看護師で、日本の一般病院勤務の後に青年海外協力隊、その後 NGO 現地駐在看護師としてラオスに派遣され医療の発展に貢献してきました。なぜ看護師が防災に?と思われる方も多くいらっしゃると思いますが、実は看護と防災は密接に関係しており災害看護という学問も確立されているくらいなのです。私自身も国際協力とコミュニティ開発、また看護という視点から SEEDS Asia の防災教育活動に興味をもち、現在そのプロジェクトの一部として活動に携われていることを非常に嬉しく思います。将来は SEEDS Asia で培った海外経験を活かし、看護と防災を融合させた幅広い防災教育を通し日本のコミュニティの活性化につなげていきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。





 India

**Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project for Participatory Community Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi**

Organising Citizen Forums

While the previous newsletter (vol.49) mentioned about Climate Schools (CS) and the installation of weather observation devices in CSs, this newsletter (vol.50) is going to introduce the role of Citizen Forum which is a key component in this project along with CS.

This project plans to form "Citizen Forums" in five areas where Climate Schools are located to help in enhancing disaster resilience within communities. Accordingly, SEEDS Asia is currently researching existing community groups in Varanasi, discussing and making arrangements with them in order to get them involved in the Citizen Forums.

The role of Citizen Forums is raising awareness and conducting activities of disaster risk reduction (DRR), for example implementing "town watching" (walking around the town to check for dangerous spots) and making a "risk map" so that people find out dangerous places and evacuation routes in their residential areas.



Garbage on the road. When flood occurs, these garbage will make sanitary condition worse

Every year, rainfall in monsoon season in Varanasi makes Ganga river rise. In severe cases, the water of a rising river goes to residential and commercial areas and causes flood. The flood that happened in 2011 and 2013 affected many residents staying near Ganga.

Therefore, it is an essential role of Citizen Forums to build awareness among citizens about conducting independent disaster risk reduction activities such as carrying properties to higher places in advance and making emergency bags to be prepared for flood.

There are many active community groups in Varanasi like housing communities and commercial communities who are trying to help each other and keep their own residential areas better through regular cleaning. However, their activities have not included DRR activities yet, therefore, SEEDS is appealing for cooperation from these community groups to form Citizen Forums that implement DRR activities actively.



Ganga river in dry season. The river rises in monsoon season.

 The Great East Japan Earthquake

**Project funded by UMCOR • CWS Japan**

Lecture at the Training for Chief Teachers in disaster risk reduction (DRR)

A training for chief teachers in disaster risk reduction (DRR) by Board of Education of Kesennuma City was held on 23rd February 2016 and SEEDS Asia served as a lecturer. In addition, two chief teachers in DRR made their activity reports while Mr. Usui - Chairman of the Network Association of Voluntary Organizations for DRR in Kesennuma City presented about DRR-related activities by voluntary organizations.

In the presentation by SEEDS Asia, the movie that the organization created in January - "Innovation in Education for Sustainable Development and Disaster Risk Reduction in Kesennuma City- Lessons towards future generations" was shown for the first time. The movie confirmed again the efforts of teachers in school-based DRR as well as the lessons and hardships during the recovery from the tsunami disaster that can never be forgotten. Besides, the movie not only talked about DRR, but also about the necessity of schools and students' participation in the progress of community recovery when it showed the images of exchange meetings between Jonan Junior High School and Nango Disaster Recovery Public Housing.

After the movie was shown, there were comments from teachers such as "We would like to use this movie to let people know about the current condition of Kesennuma", "I want to show this movie to the students in my class", or "You made such a good movie".

From now on, we will show this movie in various places in order to help the neighborhood associations that consider establishing voluntary organizations for DRR to understand how schools are implementing DRR education.

Disaster risk reduction (DRR) Education with Iriya Elementary School in Minami-Sanriku Town

On 15th February 2016, SEEDS Asia had a discussion on how to expand DRR education in the next year with chief teachers in DRR at Iriya Elementary School in Iriya area- an area located on the high land that was luckily safe from the devastating tsunami disaster that hit Minami-Sanrikucho, Miyagi Prefecture.

Iriya Elementary School was selected as a model school for DRR education by Miyagi Prefecture. Although the school did not suffer from the tsunami disaster, it is located in the area where landslide problem is concerned. Besides, it also has to function as a base for logistical support when tsunamis occur.



The Minami-Sanriku Disaster Prevention Center where many people fell victims to the tsunami disaster

However, most of the citizens do not have much sense of danger towards landslides, so DRR chief teachers were worried about how to build DRR awareness among local people.

Therefore, it was expected that the SDRA (School Disaster Resilience Assessment) by Kyoto University and know-how of SEEDS Asia in community support will be leveraged. SEEDS Asia promises cooperation including schedule for the next fiscal year and hopes to build close linkage with the local area in Minami-Sanriku town to promote DRR education.



In Minami-Sanriku, 90% of children go to school from distant places by bus



Emergency relief for affected people in the big fire in Labutta Township

Distribution of school kits to affected students

In Labutta district, Ayeyarwady region, a big fire broke out in the middle of night on 4th February 2016. 179 houses and 20 stores were burned down and 190 households were affected. Based on the damage report by Labutta Township Government Office, Education Office, the Department of Relief and Resettlement- Ministry of Social Welfare Relief and Resettlement, SEEDS Asia distributed school kits to a total of 170 affected students in five (5) schools on 9th February. In this emergency relief, 4,148,000ks (about 410,000 Yen) was donated by Myanmar Engineer Society, professors from Myanmar's universities, SEEDS Asia's Burmese friends, staff members from SEEDS Asia's Headquarters and Myanmar Office. We would like to express our deep gratitude for your warm support. More detailed information about this support can be seen via the link below. Moreover, the donation received after emergency relief will be used to support the 29 students that have been added to the report by Labutta Township Education Office (expected to be distributed after the school year final exam).

[http://www.seedsasia.org/JP/wp-content/uploads/2016/02/Report\\_on\\_fire\\_Labutta\\_20160219SEEDS.pdf](http://www.seedsasia.org/JP/wp-content/uploads/2016/02/Report_on_fire_Labutta_20160219SEEDS.pdf)



A group photo with students and teachers and staff from Labutta Township Education Office

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) in Disaster Risk Areas

Preparatory work for establishment of DRRAC and Opening of DRRAC in Laputta BEHS 2 (Kungyangan, Labutta and Bogale Township)

This project which is completed at the end of March 2016 has been aiming to build the linkage between schools and local area through the establishment of six DRR Activity Centers In Bogare Township, Kungyangon Township and Labutta Township, with two Centers in each Township. The project is nearing its completion, all six DRR Activity Centers were opened as planned. On 12th February, the person in charge of this project in JICA Kansai, Mr. Shirai, visited Myanmar to monitor the situation in two DRRACs in Labutta Township (in Basic Education High School (BEHS) No.2 of Labutta Township and BEHS in Bithu village).

**1) Kungyangon Township**

Before the opening ceremony held on 31st January, training and workshop were implemented at the second DRRAC in Kungyangon Township which is located in Letkhokkone village as follows.

- ① Training in safe construction technology (6th- 7th January)
- ② Action Plan Workshop for DRRAC in Letkhokkone village (27th January)



Head of Kungyangon Township and Mr. Sakurai from JICA Myanmar attended the opening ceremony

Meanwhile, on 15th February, JICA Kansai had a monitoring visit to the DRRAC located in Kungyangon's Basic Education High School. In the visit, there was explanation about the DRR Exhibition Model by students.



A student explaining DRR Exhibition Model at Kungyangon' s DRRAC 1 (in Kungyangon Township' s BEHS)

**2) Labutta Township**

On 12th and 13th February, Mr. Shirai from JICA Kansai visited and monitored the situation in DRRACs in Labutta Township, which are located in Labutta BEHS No.2 and BEHS in Bithu village. Through the visit, it was confirmed that DRR leaders who received training are implementing sustainable DRR education activities and there is also spreading effect to other schools.

Visitors could also hear about the active support of DRRAC's members in firefighting when a big fire broke out in the fourth of this month in Labutta Township.



Monitoring at DRRAC 1 in Labutta Township



Monitoring at DRRAC 2 in Labutta Township

**3) Bogare Township**

In Bogale Township, opening ceremonies of two DRRACs were held in Kun Thee Chaung Village in Kyon Nyo Island on 9th February and Bogale Tin Aung Library on 10th.

Before the opening ceremonies, training courses were conducted as follows.

- ① Training in firefighting (12th-15th January)
- ② Workshop on action plan for DRRAC (23rd January)
- ③ Seminar on earthquake and tsunami (24th January)
- ④ Training in safe construction technology (4th- 5th January)



At the training in firefighting in Bogare Township

**USAID MCCDDM Project:  
Myanmar Consortium for Capacity Development  
on Disaster Management**

Consultation meeting between Department of Relief and Resettlement- Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement and members of the Consortium

As a consortium member in this project, SEEDS Asia is going to implement disaster management research and awareness activities. On 7th January, as part of the project, a meeting for review and discussion was held at the Department of Relief and Resettlement- Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement and members of the Consortium at the Department's Office in Naypyidaw. SEEDS Asia made concrete explanation about project overview, research method, expected output etc to the Department of Relief and Resettlement. Regarding the explanation by SEEDS Asia, Mr. U Soe Aung- Director of the Department showed strong determination of strengthening cooperation with the universities which are implementing disaster-related research.

(\*Consortium member : UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED and Technical support agencies: UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA )



SEEDS Asia explained the disaster management research

Meeting with Department of Relief and Resettlement and Dagon University (Department of Geology)

Invited by the Department of Relief and Resettlement (in Napyidaw) after the meeting on 7th January mentioned above, SEEDS Asia visited Naypyidaw with Professor Khin Khin Wai- Head of Department of Geology, Dagon University on 23rd February 2016; Professor Khin Khin Wai introduced some subjects in the Diploma Course of "Disaster Studies" that Dagon University is providing. Receiving the explanation, Mr. U Soe Aung- Director of the Department of Relief and Resettlement agreed on the promotion of the cooperation with Dagon University to aim at a more complete curriculum for the National Disaster Management Training Center that the Department established. Besides, Professor Rajib Shaw- SEEDS Asia's Board Chairman presented 14 books in the field of environment and disaster risk reduction (such as "Urban Disasters and Resilience in Asia, Sustainable Development and Disaster Risk Reduction") to the Disaster Management Training Center. The Director of the Department of Relief and Resettlement expressed his gratitude and gave a crystal glass present which has the Department's logo to SEEDS Asia.



SEEDS receiving a present from Department of Relief and Resettlement at the meeting with the Department and Dagon University

Orientation and workshop on DRR research action (Dagon University)

Based on the Workshop "Training- Research- Action" in disaster risk reduction implemented in October, on 21st-22nd February 2016, in cooperation with Dagon University, SEEDS Asia held a workshop on action-research in disaster risk reduction for 16 students of the university and 14 young researchers. SEEDS introduced basic method and process in "action-research" in which improvement plan is derived from condition understanding and analysis. Participants showed great concern.



Group photo with workshop participants from Dagon University

Field research and focal group discussion that leads to Coastal Community Resilience Index (CCRI)

In this project, CCRI research is implemented in 26 areas in Ayeyarwadi region. A research group was formed from staff of Department of Relief and Resettlement, coordinators from SEEDS Asia’s Myanmar office and Ei Ei Khine, a student in Doctor Course in Yangon Technological University. From January to February, the group conducted research in Maubin Township, Kyaiket Township, Maubin Township, Maulamyngyun Township, Dedaye Township,, Pathein Township, Tharbaung Township, Ngaputaw Township.

CCRI is composed of interview using survey as well as focal discussion for administrative organizations, local government, community, etc. It collects 125 data entries in 5 focal points which evaluate disaster resilience of coastal areas: ① social economy, ② infrastructure, ③ institution and governance, ④ coastal area management, ⑤ natural environment.



Investigation through interview with staff from administrative organization held in Pathein region

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) through Cooperation between Local Communities and Education Sector in Cebu Province

Workshop on making the iPlans that integrate DRR education

iPlan is the Instruction Plan which all teachers in the Philippines must prepare before conducting lessons. In order to put disaster risk reduction (DRR) education that SEEDS Asia proposed in this project into practice, teachers need to create the iPlans that integrate DRR education into Basic Education Curriculum. However, in fact, many teachers do not prepare the iPlans even when they conduct general classes. In order to enhance teachers' skill in writing the plans, SEEDS Asia organized workshops on making iPlans on 8th, 10th-11th, 14th-15th and 17th December, 2015 for six (6) DRR Education Model Schools in collaboration with the CID (Curriculum Implementation Division) - the section in charge of checking and evaluating iPlans.

As a result, after these workshops, all the model schools in Danao, Bogo and Daanbantayan submitted their iPlans which concerned continuous implementation of DRR education. The iPlan will then be revised by the CID and a pilot test of the plan will be carried out in another school. Once it is formally approved by DepEd, this iPlan becomes a comprehensive model of education to be shared on the website of LRMDS (Learning Resource Management and Development System) of DepEd - a portal that is open for the whole country and the world. This is such an unprecedented initiative by this project.



A workshop on making iPlan at Central school, Bogo

Harvest of Excellence Award of DepEd Region Office VII to SEEDS Asia

DepEd Region Office VII held an awarding ceremony for its partners on 1st February, 2016. SEEDS Asia was one of the recognized partners for its valuable contribution to the enhancement of basic education through building teachers' capacity on DRR education, integrating DRR education into basic education and iPlans for levels from kindergarten to grade 10 (junior high school), and having DRR initiatives in school-based DRR education in cooperation with respective local communities.



Harvest of Excellence Award of DepEd Region Office VII to SEEDS Asia

During the meeting, SEEDS Asia introduced the outline of this project and emphasized the importance of the linkage with local community in DRR Education. There was also discussion on the roles and responsibilities of each member of the community before, during and after disasters. Furthermore, representatives of the Model Schools had chance to report the DRR Education initiatives that their schools had implemented. The presentation of the Model Schools clearly showed their active involvement in many DRR-related activities and change in their attitude in only about two months- a short span of time after their training from 26th-30th October 2015.

Hopefully, after this meeting, schools, PTAs, barangays and the local government will unite to reach the goal of implementing DRR education through cooperation with the local community.



Group photo with participants in the meeting at BEATRIZ D. DURANO Memorial National High School in Danao

Meeting on the Implementation of DRR Education in Cooperation with Local Community

Since the commencement of the DRR Education Project in Cebu Province in November 2014, the progression and achievement is being realized gradually. SEEDS Asia has established the system of DRR Education promotion in cooperation with DepEd Region VII Office by creating the a steering committee and a Core Team, and conducting 5-day capacity building training as ToT (Training of Trainers) in addition to a study visit for the Core team in Japan. Moreover, the Core Team has provided training in DRR education to the identified teachers at the six (6) DRR Education Model Schools. Now the next step is to strengthen the linkage with local community for the sustainability of DRR education. Therefore, SEEDS Asia organized meetings on implementation of DRR education through cooperation with the local community at model schools on 22nd-24th and 29th February, 2016. The meetings gathered representatives of Parent-Teacher Associations (PTAs), barangay captains, the local government disaster risk management (DRRM) officers and the Model School' s teachers.



Philippines (Makati)

**Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project on Raising Awareness for Disaster Risk Reduction by Mobile Knowledge Resource Center (MKRC)**

Myanmar Study Visit

SEEDS Asia's main partners in this Project, the Project Implementation Team (PIT) sent their five (5) representatives to Myanmar for a study visit in order for them to learn from the founder of the original MKRC, from 31st January to 6th February, 2016. SEEDS Asia Myanmar has its pioneering implementation of Mobile Knowledge Resource Center (MKRC) which the City Government of Makati will refer to in awareness-raising of DRR in its communities.

The PIT representatives were sent from the following offices/ organizations:

1. Disaster Risk Reduction and Management Office, Makati City Government

2. Urban Development Department, Makati City Government
3. Information and Community Relations Department, Makati City Government
4. Liga ng mga Barangay (League of Barangays), Makati City Government
5. Department of Education – Makati City Division.

These members are the core implementers who are the decision-makers and trainers of their community members.

Below is the schedule of the Visit.

Jan. 31	Transfer from Manila to Yangon
Feb. 1	Briefing on DRR systems and situations in Myanmar and the Philippines
Feb. 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Field visit and observation of actual MKRC training conduct</li> <li>• Courtesy call on Relief and Resettlement Department</li> </ul>
Feb. 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Workshop on Monitoring &amp; Evaluation</li> <li>• Courtesy call on Myanmar Engineering Society</li> <li>• Courtesy call on Ministry of Education</li> </ul>
Feb. 4	Workshop on planning
Feb. 5	
Feb. 6	Transfer from Yangon to Manila

Thanks to the host in Myanmar, the Visit provided a great load of information and ideas on how the Makati MKRC will be implemented. Through the observation of actual MKRC training on 2nd February, the members could obtain concrete ideas on how the MKRC training can be further improved in Makati. Meeting with different agencies who have been involved in MKRC training at different stages of planning, conducting and future implementation, the representatives were able to capture possible challenges and vision the hopeful scope for contributing to communities with various partners.



Makati PIT members listening to the explanation of one of the hazard simulation models

As the pioneer, the Myanmar Team also provided a lot of findings and advice to the representatives through a series of workshops. The outputs of the workshops were something that the representatives could bring back to the Philippines for further improvement.



Group photo with Myanmar Engineering Society, SEEDS Asia Myanmar Team's counterpart

After coming back to the Philippines, the representatives shared their learning to their fellow members in Makati City Government and confirmed their future implementation plan. This Visit surely helped to motivate the PIT and have definite visions for awareness-raising using the MKRC in Makati City.

## Announcements from SEEDS Asia

### Event report

#### One World Festival 2016

On 6th and 7th February, SEEDS Asia participated in the international cooperation festival "One World Festival" in Osaka. This is the biggest festival in international cooperation held in Kansai region. It was the 5th time for SEEDS Asia to set a booth in this event.

There were many booths exhibited by NGOs, NPOs, international institutions, higher educational institutions and companies which are based in Kansai region. Approximately 24,000 people visited this event in two days.

SEEDS Asia exhibited some photos taken at project sites and disaster risk reduction (DRR) education materials used in Vietnam and Myanmar projects. Some visitors asked how we chose the countries where we're implementing projects or how we used DRR education materials, so we explained to them the purpose of each project as well as demonstrated how to use the materials. Many students and working people visited our booth. It was a good opportunity for us to introduce our activities to visitors.

New staff member



One World Festival 2016 Hall



SEEDS Asia's booth at One World Festival 2016



SEEDS Asia's staff member giving a quiz in disaster risk reduction to a child

**Cebu-Philippines Office (Akiko Kida)**

Hello everyone, I am Akiko Kida. I am in charge of Cebu project in the Philippines. About two months has passed since I came here. I am glad to work with Filipinos, their big motivation toward disaster risk reduction education keeps encouraging and stimulating me.

I worked in hospitals in Japan as a qualified nurse for several years, afterward I contributed to the development of medical care services in Laos as a nurse through the projects of JICA and NGO. Some of my friends asked me: "why did you choose to work in disaster risk reduction (DRR) instead of working as a nurse?". However, I think nursing and DRR are related closely and courses in disaster nursing education have also been established for a long time. I am proud to be part of the project of SEEDS Asia since I have been growing my interest on humanitarian and community development. My further vision for the future is to stimulate community in Japan through the experiences of working overseas as a member of SEEDS Asia and through the broad DRR education which combines DRR and nursing. Thank you and nice to see you all.



SEEDS Asia's headquarters moved

SEEDS Asia moved headquarters to a new office. The new address is as follows:

3-11-30-302, Okamoto, Higashinada-ku, Kobe, Japan, 658-0072.

Our telephone and fax number do not change.